

皆さん、おはようございます。

4月に新学期が始まって以来、大きな混乱もなく、無事に一学期の終業式を迎えられたことを、まずは大変嬉しく思います。

この一学期、皆さんは日々の進度の早い授業や定期考査、模擬試験、そして部活動や球技大会、翫高祭など、様々なことに全力で取り組んだことと思います。

翫高で過ごす高校生活は、充実して楽しい反面、かなりしんどい部分もあったはずですが、しかし、皆さんはその大変さから逃げずに向き合って、1学期を過ごされました。まずは、皆さんのそのひたむきな姿勢と取り組みに対して、深く敬意を表します。

さて、今日はこれからの時代を生きていく上でのヒントをご紹介します。

現代は「VUCA（ブーカ）」の時代と言われます。VUCAは4つの英単語、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）、の頭文字をとった言葉で、「変化が激しく、先の見えない時代」という意味です。

これまでは、過去のデータを分析し、5年先、10年先を予測して計画を立てることが可能な時代でした。例えば、皆さんが学んでいるカリキュラム（学習指導要領）は、国によって10年ごとに改訂されています。今、5年先に改訂され、そこから10年間にわたって使われる新学習指導要領を文部科学省が作っているところです。しかし、これだけ変化の激しい現代で、10年先を見据えた計画を策定すること自体、すでに時代のスピードに追いつかなくなっているのが実情です。

このように、状況や「正解」が目まぐるしく変わる社会では、これまでのように「一人で、決められた問いに、素早く正確に答える」という能力だけでは通用しなくなります。今求められているのは、これまでの「当たり前」や常識を疑い、仲間と問いを共有し、「試行錯誤」を繰り返し、新たな問いに対する「回答」を作る力です。

ここで重要なのが、自分の考えを客観的に見つめ直す力——「メタ認知能力」です。

この「メタ認知能力」がこれ以上ない形で可視化されているのが、プロの将棋の世界における「感想戦（かんそうせん）」だと私は考えています。

私自身は将棋に詳しくありませんが、プロの世界では、対局が終わった直後に、勝者と敗者が盤を挟んで、初手からもう一度同じ手順を指し直していきます。そして「あの局面でなぜその手を指したのか」「どのような変化を読み、どこに死角があったのか」を、互いの思考をオープンにして議論し合います。これが「感想戦」です。

ここで素晴らしいのは、さっきまで激しく戦っていた敵同士が、感想戦が始まった瞬間、「より良い指し手」を一緒に探究する「共同研究者」に変わる点です。

勝者は敗者から学び、敗者は勝者から新しい視点を吸収する。お互いの頭の中をさらけ出すことで、自分の考えを客観的に捉え直し、自分一人では到達できなかった深い気づきや思考を得ることができる仕組みになっています。

現代は、AI が簡単に高精度な「答え」を出してくれる時代です。しかし AI は、その結論に至った複雑な計算プロセス（ブラックボックス）を、私たちに分かりやすく解説してくれません。

一方で、将棋の感想戦で行われるのは、「あの局面で、自分はどんな思いや意図を持ってその一手を選んだのか」という、自らの内面や思考の軌跡の言語化です。

AI の提示する答えを鵜呑みにせず、「なぜ自分はそう考えたのか」「自分の思考の癖や弱点は何なのか」といったことを客観視する「メタ認知能力」こそ AI にはできない、人間にしか持てない能力なのだと思います。

これからの時代、一人の力だけで未知の課題に太刀打ちしていくのは不可能なのではないかと思います。一方で、仲間と「感想戦」を行い、知識や思考を高めあうことができる人は、この未来の不確実な時代を乗り越えていけるはずです。

明日から、比較的時間の自由になる夏休みが始まります・

ぜひ、このまとまった時間を生かし、普段はできないことに挑戦してほしいと思います。そして、上手くいったことも、失敗したことも、自分自身で、あるいは仲間と一緒に「感想戦」を行ってみてください。その試行錯誤のすべてが、皆さんのメタ認知能力を鍛え、未来を生きる力になると私は考えます。

それでは健康と安全には十分に気を配り、実り多い有意義な夏休みにしてください。